

えんちょう通信

No.80

令和4年9月20日

福島市立清水幼稚園

発行者 佐藤 一男

みんなで地域を「お散歩」する

9月16日(金)、今日もさわやかな朝です。朝の涼しいうちに小学校の校庭で少し運動会の練習をして、すぐに散歩に出かけました。

まず近くのコンビニエンスストアまで歩き、そこのポストに敬老の日に着くようにおじいちゃん、おばあちゃんに書いた葉書を入れました。子どもたちがみんな葉書を出し終わったちょうどそのとき、泉駅に電車が来て止まりました。子どもたちは、これまでも何度も乗せてもらっているので、「いい電」を友だちのように思っています。子どもたちが、電車に向かって「オーイ！」と手を振ると、気が付いた運転士さんも手を振ってくれました。子どもたちは大喜びです。その大騒ぎしている子どもたちを、コンビニの店員さんは優しく見守ってくださっています。

その後、すぐ近くの佐藤家住宅(※国登録有形文化財)の庭に遊びに行きました。シロツメクサが咲く、緑がいっぱいの庭とかやぶき屋根の古民家がとてもきれいです。庭の池からはポコポコと清水が湧き出しています。

佐藤さんが待っていてくださって、挨拶をすると「どこでも、好きなように遊んでいいからね。」「虫でも何でも、とっていいよ。」と子どもたちに話してくれました。

「あっ、チョウチョだ!」「赤トンボがいる!」と子どもたちはすぐに追いかけて、庭を駆け回っています。すると佐藤さんが虫を入れるビニル袋を持ってきて子どもたちに配ってくれました。帰りには庭の花を摘んで子どもたちに持たせてくれました。佐藤さんはいつも子どもたちを「地域の子」として優しく迎えてくださいます。

佐藤さんや「いい電」の運転士さん、コンビニの店員さんなど、地域のたくさんの方々が、子どもたちを見守ってくださっています。ですから子どもたちは安心して散歩に出かけることができ、虫とりに没頭することができます。

こうやって、みんなに大事にされて育った子は、他の人にも優しくなれるのだらうと思います。大切なものは近くにあるんだなと思いました。

